

追 悼



丸 子 亘 先 生 の 御 逝 去 を 悼 む

本会会員丸子亘先生は、かねて手術の胃痛のため、昭和61年5月12日再入院され、7月16日朝、胃がんのため御逝去されました。享年60才でありました。

先生は大正15年3月東京都新宿区四ツ谷生まれ、早稲田実業を経て昭和25年3月旧制立正大学文学部史学科を卒業され、故石田茂作、久保常晴両先生の教えを受けたことが先生の仏教考古学・博物館学へと進む決意を確固にしたと思われます。同年4月同大学史学科助手に就任され、専任講師を経て、昭和37年助教授となり、約20年余にわたり史学科の中核として活躍され、多くの教え子を世に送り出しました。我々は、よく先生の発掘調査に参加し、その御指導ぶりに深く感銘し、先生のもとへも御指導を受けに通ったものでした。

先生は昭和36年に博物館学講座が開設されるとその中心となり、講座発展の為に専念され、又、昭和26年4月製紙博物館研究嘱託を兼ね、日本博物館協会の設立に尽力し、昭和29年社団法人日本博物館協会の主事となり、昭和32年国学院大学文学部講師も兼任されました。

立正大学博物館学講座では、博物館学全体はもとより、先生の持論とも言える、博物館資料の整理及び分類方法の必要性について教えを受けたことが思い出されます。

このことについては先生の著作である「博物館資料の整理・目録法・分類法要説一」に詳細に説かれておりますが、コンピューターが広く使用され、分類・目録の方法が各分野で重要視されるようになった現在、先生の論は先を見たものであったと言えます。

又、先生は考古学においても多大の成果を収められました。千葉県印旛郡八街町出土の「山辺郡印」の発表は、東国における律令社会を知るうえで極めて貴重なものです。

先生は昭和55年から亡くなる日まで本会の委員を長くなされておりました。先生の想い出は尽きませんが、今は御冥福を祈るのみです。

(渡 邊 智 信)